

医療現場で働く方々への感謝とお礼

はじめに

昨年末、店内で転倒し、両肩を骨折・脱臼する大怪我を負い、手術とリハビリを含め3ヶ月以上入院しました。当初は両腕が全く使えず、トイレも看護師さんに手伝ってもらう状態でした。怪我のショックで落ち込み、「もう仕事復帰は無理かもしれない」と思うこともありました。

しかし、医療現場での経験を通じて考えが大きく変わりました。そこで感じた感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

感謝の気持ちが生まれた

整形外科の先生方は治療の進み具合を定期的に確認し、看護師さんは24時間体制で患者を見守り、ナースコールにも迅速に対応してくださいました。薬の管理も徹底され、治療のリズムを保つことができました。

リハビリ担当の先生方は、綿密に計画を立て、繊細かつ過酷なりハビリを丁寧に指導してくださいました。医療現場で働く方々の献身的な姿勢に触れ、「この親切に応えなければ」と前向きな気持ちになれました。

広がる感謝の気持ち

医療現場には、医師や看護師だけでなく、薬剤師、食事を運ぶスタッフ、清掃員など、多くの方が関わっています。病室や廊下を清潔に保つ方々の中には、高齢の方もおられ、その働きぶりには頭が下がる思いでした。

このような方々への感謝の気持ちが日増しに大きくなり、「医療現場は多くの人々の献身によって支えられている」と実感しました。

感謝の気持ちを伝えた経験

私はできるだけ直接「ありがとうございます、とても感謝しています。」と伝えるようにしました。ある日、清掃スタッフの方が「そんなことを言ってくれる人は少ないのよ、元気が出たわ。」と話してくださいました。その言葉を聞き、医療スタッフの仕事は単なる業務ではなく、人への親切心なのだと改めて感じました。

また、店員さんや救急隊員の迅速な対応にも感謝しています。彼らのおかげで、私は適切な治療を受けることができました。

未来への希望とやりたいこと

リハビリが進み、意欲が湧いてきた今、私は地域のパソコン教室で働きたいと考えています。少しでもお世話になった方々への恩返しができればと思うからです。

リハビリ主担当の先生にも相談し、スマートフォンで求人情報を調べてもらい、退院後には面接を受ける計画も立てています。医療現場の方々の親切のおかげで、前向きに生きる力を取り戻しました。

これからも感謝の気持ちを大切にしながら、社会とつながり、自分らしい生活を送っていきたいと思います。

本当にありがとうございました。